

金倉秘傳集

香林書房

|   |   |  |   |  |     |
|---|---|--|---|--|-----|
|   |   |  |   |  | 和書門 |
|   |   |  | 二 |  |     |
|   |   |  | 四 |  |     |
|   |   |  | 五 |  |     |
|   |   |  | 三 |  |     |
|   |   |  | 六 |  |     |
|   |   |  | 七 |  |     |
|   |   |  | 函 |  |     |
|   |   |  | 號 |  |     |
|   |   |  | 類 |  |     |
| 一 | 〇 |  |   |  |     |
| 冊 | 架 |  |   |  |     |

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 內 |   |
| 九 | 二 |   |   | 和 |
| 五 | 四 |   |   | 書 |
| 函 | 九 |   |   |   |
|   | 五 |   |   |   |
|   | 三 |   |   |   |
| 四 | 冊 |   |   |   |
| 架 | 號 |   |   |   |
|   | 類 |   |   |   |

(二冊)

|      |         |
|------|---------|
| 內閣文庫 |         |
| 番號   | 和 24953 |
| 冊數   | 4 ( 2 ) |
| 函號   | 195 83  |

醫書函

堅



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





金瘡序

淺草文庫

夫疵、自藏腑起非病、釵及當皮肉、  
筋骨破故、金瘡ト名ク是愈、夏軍士專  
能、世向ヲ助司命也、其疵雖重ツクロ

ウニヨリテ必治也、疵ノ人顔色赤ク空シ

見、ワリテ赤シモ吐キ衣裳シカイツクロイ

ナシトメ眼ノ中白ク青黒ク血脉ウキ

テミリカワシクハ必死ス、顔ノ色常ニメ

眼中タシク赤シ能ク吞血脉ニツカニ細

メハ生ヘキ也、然ハ皆人病アリ、甚イワ

ハ寒熱虚実トテヒエタル人ホトシル人心  
ノウツケタル人ウチノアツキ人ノ夏也寒ノ人ハ  
風ヲ常ニシ熱ノ人ハ癰疽瘡ヲヤマ虚人  
ハ虫腹ヲ常ニヤマ実ノ人ハアツケシマ  
ハ是也故ニ実ノ人ノ痲ハ或ハ十ハ或ハ八  
ナトスル熱ノ人ノ痲ハ血ヲトメカタシワロ  
クスレハ必痲癰トナル虚人ノ痲ハ食ヲ  
クワントメ必吐ヘシ痢下ツマリクルシクメ  
不止実スル人ノ痲ハカヨハス大便モ結スル  
也此四種ヲホヘテ宜ク内茶加減スヘシ

此儀ヲ能サトリテ痲先ノ証ヲ考ヘ痲ノ  
浅深ニシタカワテ内外ノ良茶ヲ与不治  
事アラシヤ

目錄之事

- 一 氣付茶 黒茶
- 二 内茶
- 三 血留茶
- 四 痲ノ口付茶
- 五 痲廻リ付茶
- 六 愈茶
- 七 膏茶
- 八 泻茶
- 九 身中血 コレモルン  
泻茶
- 十 身中血入ルヲ泻茶
- 十一 内茶
- 十二 好食
- 十三 禁物
- 十四 痲洗薬物
- 十五 腸出シ治茶 シラヤ
- 十六 頭ヲ腦出夏
- 十七 痲癰
- 十八 六愈下不愈

丸矢リ扱

廿日近疵ニヨツテ目見ニ治

廿疵人狂

廿三手負スクム事

廿三手負ソル事

廿四手負手ヲ千タル事

廿五疵筋キル事

廿六火失ヲ治事

廿七疵ヨリシタ多事サハ疵ヨリ汁多タル事

廿八愈破ル事

廿九疵ノ高低ヲナラス事

氣付茶之事

夏冬土用ノハシフト鳥ヲニルナカラ黒焼ニメ細

ホメカウカイノミ、三七砂又ハ五七湯ニテモ水ニテモ

酒ニテモ可深

二内茶 烏ノ黒焼茶一服ホトヤキシホ半服ホト

入テ湯ニテ与ヨハカスハ可生若ハカハ死但

二度与テ後ヲ不吐可治二度ナカラ吐ハ

イロフ(カラスコレキノ脈)又細川野州ノ

内中村方イヌノ尻草ヲ七月ヨリ内ノヲ

取テカケホシニメ粉ニメ茶一服ホト湯ニテ

モ水ニテモ吞テ見ハ一度吐タシハ又二服吞

テ後ノ二服ヲタモタ可生前ト中ト二服

吐タラハ死スヘシ療治スヘカラス

一延命散 人参一两 胡枰春ハニ方 秋冬ハ一方 蒲黄一兩

葛粉二方 甘草二方 右細末メカウカイノ耳

三七ヲ湯ニテモ水ニテモ酒ニテモ可子酒ニテ

吞セハ酒ニ水少入可子

一人参散 人参一两 甘草二方 灵天盖一兩二方

右三種ヲ調合メ能粉ニメ一斗湯ニテ与ヨ

一黑茶 人参一两 甘草 牛膝 白朮 桂心各二方

右五色焼細末メ鹿角十兩落タルハアシハ

ナテ角吉シ忍冬草 黑焼ニテ十兩都

合廿二兩内粉茶二兩黑焼廿兩調合メ

茶一服ホト湯ニテ可子

一忍冬草散 是ハ吐田カ秘茶秘モ用タリ忍冬草

一忍冬散 是ハ南部ノ秘茶也秘モ用タリ忍冬

草 黑焼ニテ茶一服ホト五草ヲ前ノ五分加与

三血止茶 ツヨクタル血ヲ急ニ止レハ必血ノミチ

サクラニメセツジスルノアリ先氣付茶ヲ与テ

手負心ヲ取シツメテ止ル也

一紫檀散 シタン シヨク細末メ蒲黄各

等分合ハコヘラモミテ其ニヒ子リカケテ疵ノナリ

シタカイテサヘテシクヘシ

一方ニ石ノ上ナントノコケヲホシテ粉ニメ如前可

付

一方ニ蓮花ヲホシテ末メ前ノ如付ヨ

一方ニ山玄花ノハヲホシテコニメ付ヨウケテ其血ニ

共ハ中ヲヒホリカケ高所ニシキテハトニル

一方ニ牛ノヒタイヲモミテ可付又日ニ干テモ妙也

一方ニ松ノミトリヲ取ハサリテ干テ粉ニメ付ヨ

一方ニカキトヲシテ餘米ニスリマセテ付ヨ

一方ニ葦毛馬ノ尿同馬ノ血ニ冬陰子ニメ黒焼ニメ付

一方ニ血トメ茶ニテ止ラサルニハ蓬ノクキヲ葉テ

血トメ茶ヲニ合マセテ付ヨ

四

口付茶スイヤニ深疵ニ用ヨ山桃ノ皮ヲキメテ

アフリニ両山モノノ熟シタルヲ于黒焼ニテ

ハセウノ葉春モエテ一尺ニ生シタルカ吉竹刀ニテ

刻ミ于テ黒焼ニテ一分天南星ノ上皮ヲ去サメ

ニテヲロシテ一分右四色細末メ調合メカミノ

油ニテシルクトトキテ鳥ノ羽ニテ疵ノ口ニ付フ

夕ニハ牛房ノ葉モヨシ青木葉ニテモアフリモミ

テ付ヨ葛粉少加又疵中ニ鉄氣ヲモリテ

煩ハ槁栗カチクリヲサメニテシロシ加

一 伏見茶ノ事

其羊角一兩 鹿茸一兩 沉香二兩 耳草二兩  
ウシ三兩 右五種細末メ調合メハコシモ三  
テ汁ヲ去テ此茶ヒ子リカケテ疵白ニ押付ヨ  
深疵ナラハクタニテモ吹入ヨ又疵ノ口ウツカニ  
腦ヲ粟粒ホト加テ付ヨ又ハ天南星粉モ吉  
又耳ツノ粉モ吉 此伏見茶ニモ不限ウツクニ  
ハ何ノ茶ニモ加付ヨ

一 源氏薄色

石灰ヲ茶椀ニ水ヲ入カキタテ、イサセテ上スミ  
シハステ、又水ヲ入百日サラメ後ニ粉ニメナメテ  
何トモナクハ用ヨ若舌ノ上ニテヒリメカハ猶モサラ  
セ又小麦一二寸ニモエ出タル時取テ黒焼ニスヘシ  
ハコ一モ黒焼ニスヘシ右二色ヲ等分ニ合石灰ヲウス  
イロニ成程ホメカミノ油ニテ疵ノ口ウスくと付ヘシ  
最上ノ秘茶也

一 平家ノ赤色茶ノ事

吐田南部ハ肌守ト名ケタリ日本ニ用タリ石灰ヲ  
搦様ハ同前石灰ノウツカニ成程能丹ヲサシ

テ茶ノ如ク付ヘシ

一藤原將軍ノ秘藏ナル利仁茶ト名タリ

一北一サシタル桃枝ヲ手一束東一サシタル同木枝ヲ  
手一束黒焼ニスヘシ

右二色黒焼ヲハコノ汁ニテケシテ粉ニメ髮ノ油ニテ付ン

一多田秘茶ニハサラシタル石灰ニ生十八サキヲ粉ニメ

忍冬ノ草ノ黒焼ヲ能スリ此二色ヲ石灰ヨリモ五

分一ニメ合テ髮ノ油ニテ付最上ノ秘茶土波家

ニモ用又復冬ノハシフト烏ヲ黒焼ニメ髮ノ

油ニテ付ヨ深麻ニハシノクタニテ吹入ヨ多田

左馬助因氏入道ノアマタノ人ニトテ吉也又

カキノ実ノ黒焼髮ノヲ千ノ黒焼鹿ノ袋角

何モ性ノ吉角ヲ名ヤキニメ櫻木ノアマハタウ

ツキノアマハタヲ黒焼ニメ髮ノ油ニテ付ヨ神保

一段用タリ

一鹿角焼様事

畠山幡ノ守祐盛一段ト秘ノヤカレタリ何

ノ茶ニモ吉是同一色ハ白焼五女用ヨ是ハ

筋骨ヲツク茶也一色ハウス色ニ焼テ三女

一色ハ黒焼ニメ一女



右三色ヲ細末メ髪ノ油ニテ付ヨ最上

一朝虎丹是切疵ノ菜也

春夏ハ五兩  
秋冬ハ三兩

石灰

春夏三兩  
秋冬五兩

活樓根十兩

麋射香

二分別ニ

天南星一兩 搗粟粉一兩 右六種廿一兩二方

ヲ調合メ髪ノ油ニテ付ヨ疵ノ廣サニ隨テ牛

房ノ葉ニテモ青木ハニテモアフリモニテ筋ヲ取付ル

一方ニ烏ノ黑焼一兩タニシノカラ土器ニ入テ焼テ一兩

黄藤ヲキサミツアブリ粉ニメニ方 甘草粉

葛粉ニ方 右五種ヲ能ク末メ髪油ニテ付ヨ但

シルタラハ口ヘヒ子リカケヨ又方ニシメ貝ヲ

土器ニ入黑焼ニメキハタノ粉ヲ少加髪油ニテ付ヨ

一疵ノ廻ニ付菜ヲハ地菜ト云也疵ノ廻リハルヲ

去菜之ウツキノ枝 カキトヲシ大ハコ スイ

カツラ 犬ノシリ カイモ 七色ヲ于テ土ノ上ニ

ヲキテ火ヲツケテヤキテ水ヲソ、キテ火ヲ

ケシテ末メ田ニシノ灰ト葛粉ヲ少加テハコヘノ

汁ニテシルクト、キテ烏ノ羽ニテ何ノ疵ニモ

付一シ大事ノ疵ニテ此菜ヲモ不用メハレニサハ

赤アツキノ粉ヲ加付一シソレニモ不用ハ方ニアリ

子チニヤヲスリテ加付一シ秘

六痲ノ愈茶之事

青木葉ヲナラヘテ其上ニ沉香ヲキサミ  
テ置其ヤラ沉香ヨリハ多ク置テ其上ニ青  
木葉ヲ置テ黒焼ニメ細末メ髪ノ油ニテ付ヨ

又方ニ石灰一兩黃柏粉右二色ヲ稠合メ髪ノ油

ニテ付ヨ

又方ニヒサカキノハヲ干テ黒焼ニメクスノコヲ加テ髪

ノ油ニテ付ヘシ又方ニハシホソノ鳥ノ羽ヲソコナワ

テ酒ニ一夜ツケテ黒焼ニメ末メ髪ノ油ニテ付ヨ

又方ニヒサカキノハクサノワウハクソカツラハコゴベ

五色等分ニトリ合クロマキノ葛粉セツ油ニテ

七膏藥之事 是ハ大和吐田方也

ウノ丸焼 烏ノ丸焼 鮒ノ丸焼 鯉ノ丸焼

鳶ノ丸焼 トヒウラノヒシ 塩引ノ丸 白丸

サルノ丸 子コノ丸 車前草 髮ノ落ヲシ

子ノ生タルエナ 青木葉 春サシノ小麦各二

狼ノ丸 犬シリ草 ヒヨトリシヤウコ 虎皮

ス、メカクレ麻 各二各ヤキテ 荏ノ丸焼 イワメ

粉ニメ一ノ口ノホケサキアシノツキメアリ 屎ノ黒焼

鮑ノ黒焼 土龍ノ黒焼 一各 右廿八種六十各

百草ノ名焼甘合ホメ松ヤニ三味ヲ子ル  
ヘシ髪ノ油ト各クロヤキトシ入テツ子ノカウ  
ヤクノ如ク四季ノカケンラ以テ練レ軍士ノ多  
子ヲ子ル如クナルレ又子クテレモ同告レ

八 浮茶之事 高中圓 是ハ万ノ浮茶モ告

南木香ニ方大黃ニ方胡椒ニ方牽牛子ニ方

人參ニ方丁香ニ方甘草ニ方縮砂ニ方

沉香ニ方巴豆ニ方右十色ニ方ホメ糊ニテ丸メ

茶ヲ衣ス一服ニ粒シホエテ齒ニアテス可ク

一二生散 ウニ三兩大黃ニ二兩ケニ三ニハニ一ニ女

右各粉ヲメ調合メニ一服ニ子

一 棠サ楮イ 當飯ノヒテ 川大黃 右等分ニキサ

ミ合テカウイロニナルホトアブリホメ茶一服

ホト湯ニテモ茶ニテモ与ヨ又味噌ヲウスクタテ、

モ与ヨ又ニワトコノハラセシテ其汁ニテモ与ヨ

一 黃苓散 能挽茶ヲ一服ホト白イ物半分

程調合メユニテモ水ニテモ与ヘシ

一 黑神丸 朱砂圓ヒ云 飯ツブナ粒巴豆サ粒ハ豆ハ豆ハ

シ合テツノカタテル程百草ヲ入カタメテ甘

一粒丸朱ヲ衣ニキセ湯ニテモ塩湯ニテモ与

童

一 黃精丸 川大黃ウイメ 牽牛子ホトトギス

巴豆ヒトツ 右各合糊テ・十粒宛湯水ニテ

一下浮之ヌ 針ニイナシ付テゴボウ

大ニナトノサキヲワリ其皮ニ目ヲハサミテ差

ノ穴ハ指ヲ入テ目ハ中ニ止ルヤウニヒキヌク也

九トウノ中血ヲ浮事

朱砂 白物 大黃 芍方 右三色合テ・丸メ塩

茶ニテ十粒ツト又生姜ヲツキシホリテカ

スヲ去テ其汁ヲ大目ニ方一浮菜ヲ与ヨ

十一 内菜之事 四物湯 當飯ヲ川芎

大黃 右末メ常ノ如クニ煎与ヨ 手及鼻卧ニハ

少ツト与ヨ 頭ニ疵アラハ川芎ニシテ入ヨシワラ

キシ声カレハ人參 桔梗ヲ女加ヨ 腹中ニ血入

テクタクスメトトリ久メ煩ハ蘘枋ヲ刻ミ加ヨ

コレハ火ヲイム同蒲黃ニ方加ヨ 又手負ノ腹

中煩テハラ下ラハ胸ヲトリ腰ハリテ大便ツ

ウシカタルト大黃ヲアフリニ方四物湯ニ加ヨ

又痢クタルトモ小便通シカタクハ木通ヲ

アフリ四物湯ニ加ヨ 惣メ十三方ニアルカ吉

一通血湯 肉桂ヲ 红花ヲ 木通一 兩

牡丹皮一兩 當飯一兩 川芎二方 赤芍藥一兩

右細末メ如常是ハ血ヲ能クシサムル藥也

一丸珍散 芍藥 當飯 川芎 大黃 香白芷

各二方 黃芩 活樓根各一分 地黃一兩 其中一兩

右細末メツ子ノ如ク藥メ又癰疽疔ニモ

疵腫物ニサイ上ノ内藥ノ事ニ依テ銘ヲ可替

一六物湯 是ハヤウシヤウノトキ可用 當飯一兩 方

センキウ一兩 地黃一兩 芍藥一兩 人參一兩

右細末メ每服ニ二文 センシヤウ常ノ如シ

三好物 右キイモノクキハコハ フキ ナハニ

大コシラ ヒトモシテ 竹ノ子 牛屎 山ノ毛 ハス<sup>ニテ</sup>

アツキ 山モ、 カンシ モ、クヌコ ウト

キリクキ フ ミシクウ ジモエ ヌトリシ アカユ

氏ノ香物 タイ 名タイ カツホ カシ ヒシクイ

ヒハリ ツクミ ホシハム イリコ 但南部ハ肉

ヲモ禁スルコトアリ

三禁物 コエヲ高クスル アラクミ<sup>フ</sup> 愁愁<sup>フ</sup>

スイメン 酒ヲ過ス<sup>フ</sup> 川真雉子 サケ

十疵洗藥物之事 大ハコハコヘチウヤク

フチコフ 右四色等分ナニ 塩入ヨククセシメ



口ナタ水ホトニサマシイカニモシツカニアライテ  
 フクサ物ニテ水ノ甘ル所ヲ拭ヘシ能拭テ  
 スイ茶ヲ付テ覆ラメ置ヘシ其ハ手負テ二  
 日メヨリ中一日ツハシキテアラヘ又秋冬ハ  
 四日メヨリ中一日ツハシキテ洗ヘシカウベノ疵  
 シハ暫時洗ヘカラスハスノハ大ハコニノ木ノ  
 アマハタクヌキノアマハタ 台(アヲ木ハ  
 トクタミ 右能く蒸シ常ノ如ク可洗  
 又方ニ大ハコハコ(ハスノハ 千ツヤク 青木ハ  
 右センシアラフヘシ

十五腸出ル事 先出タル腹ワタニ地黄ヲ

ハコノ汁ニテトキテ鳥ノ羽ニテ能スリテ疵ノ  
 ロハスイ茶ヲ髪ノ油ニテ付 主ノ氣ヲ能トリ  
 シツメサセテ内ヘハ氣付茶ヲ湯ニテモ水ニテ  
 モ又内茶ナトモヨシカウベサケテアラノキ  
 子サセテウナシヒツカ、ミニ手ヲ入テヲサ  
 ナキ子ノ子タルヲナス如クニヲコセハ腸ハラタ  
 セナカニツイテソレ則ワタ入ヘキホトハ入也  
 ハラハタ入タラハ疵ノ口ヲサヘテスイ茶ヲ  
 ツケテヨク蓋ラメヒロキヲヒニテユウニワリニ

地茶ヲヒロクト細ニ付テ二日三日程モ  
キツクロニアタルヘカニス又手負テ五日十日  
程有テ腸コワリテ不入ハワタニテ出タル  
腸ヲツ、ニテスコシハラワタラクツロケテエ  
ノ如クニ茶ヲツケテ入ホト腸ヲ入ノコリテ  
入サル腸ヲキル(キヤウハカラムシヲ物又ウ  
糸ノ程ニ細ク繩ニナイテソレニ巴豆ヲ押ワリ  
テワレメヨリイテタルアフラヲヌリテ其繩  
ニテ出タルワタ之入ノコリテ一ワキ所ヲシカト  
クスヒ疵口ニ出タル腸ニハ前ノ如クニ茶ヲ何モ



付方テ腸ノヲチサラシホトニハ其糸モ血ニ  
テモ腸ノセイニシタカイテ主ノイタニサル  
ヤウニラ、イラメ上ヲ結ヘシ春復ハ七日ハ  
日ニツル秋冬ハ十日廿日ニ落也糸目ニハ  
イロハスメ腸疵ノマワリニハ如前茶ヲ付テ  
又ラ、イラメ置ヘシ腸ノ上ニゴキ血ヲフセテ  
シクヤウハウスキ板ノワラコシカミノヤウニウ  
スクメシナヤカニメ其キツクチノヒロサホト  
ニアナヲアケ其口ヲ出タル所ヘ板ノ穴ヲ  
サシアテ、イタ上ニガウシ血ヲフスヘシ入タル

腸ノ其終ニテ次者ニ苦直ニ五器四ラフセ  
テハ息ニテハハルトキ必ス入タルワタモ亦  
出ル也此心ヲヨクシリワケテ治スヘシ又ハラ  
ワタ少出コフノ如クニナリテ結所モナキニ  
ハ出タル腸ノサキニ地菜ヲ付テ五日モ六日  
モラキテ青木葉ニテモ牛房ノ葉ニテモア  
レ一二枚カサ子テラシモニテ其ウラニ巴豆ノ  
油ヲ付テハラワタニシ、イテ上ニシハリヲカケ  
テ度々如此スレハ腸ヲツル也後ニ口ニ愈  
菜ヲ付ヘシワタノ出タル程ハキツクアラフヘカ

ラス廻リシノ可洗又方ニ小麦ヲ粉ニテ粥ニ  
煮テサマメハラワタニ柳ノヘシニテヌリテ  
古キ烏帽子ヲアタメテ髪ノ油ヲ指ニテ  
ヌリテソト押入テ後ニ疵口ヲヌウヘシ内菜  
ハ四物湯ニ人參ヲ加テ与ヘシ

其 腦ノ頭ヨリ出タルヲ治ス事

未タ物ヲクハヌ生子ノ屎ヲ取テ湯柳ノヘ  
ラニテヨクラシ合テ腦ノイテタル疵ノ口ニ  
柳ノヘラニテウスノト付テメノ上ニ牛房  
ノ葉ヲアフリモニテ蓋ニ付テマワリニハ地



茶ヲハコヘノ汁ニテシルくトトキテ切  
付ヘシ允頭ヨリ腦ノ出ルニ人ノ手ヲヨセ  
又事ナリ件シヘラニテ腦ヲ入テ後ニ茶  
シヘラニテ付テハシコトクスヘキ也筋骨ノ  
キレタルニモ此茶ヲヘラニテ付テ如前スヘキ  
也筋骨ノ切タルニモ此茶ヲキレメヘ鳥ノ羽  
ニテ入テマワリニ地茶ヲサイく付テ柳  
ノ皮ニテ巻立テ冬ハフルワタニテ二重三重  
其上ヲ包ムヘシ其ハウスキカチノ布ニ重  
包ムヘシ彼茶ヲハ末メモツカウヘカワラケニ

ヌリツケテホシテ用ルトキ大ハコヲヨク  
アライテツキシホリテ其汁ニテトキテ用  
一 骨筋ワタナウキレタルヲツク最上ノ茶ニハ  
ウミナカシノ死タル子ヲ男ニ女イツレニテモ取  
テ頭ハカシラ手ハ手胴ハ胴足ハ足ト別々  
ニキリワケテ板ノ上ニシキテ又板シキ  
其上ニシラツヨクカケテシルヲ押出イ  
タメ秋冬カケホシニメ何時モサメニテコソ  
ケテカウヘノキツナラハ其以昔手ノ疵  
ナラハ手ヲコソケテ付ヨ胴ハ胴足ハ足ヘ

ソエくニコメケテカミノ油ニテ子ヤシテ鳥  
ノ羽ニテ付ヘシ又チノ便ノ太義カル人  
ハ別々ニメ黒焼ニモ如前ニツカフ是ヲチゴ  
テト云 細川ノ玉林寺殿普光院殿様  
御供ニテ赤松トコロニテ右ノ手ヲホスト  
サレタルヲ天下ノ大醫氏能タレヒコワリテ  
ハ<sup>著</sup>カトラレサルヲ五日ハカリアリテ後中  
村入道カ参リテ又クサリ菜ヲ付テヒキ  
ヌキテツキナラシテハシフトリエタルハ此  
午コキニテツキタリ最上也

疔癰之毒

ニノ木アマハタ火ヲイカ

象ノ牙<sup>カウ</sup>火ヲイム 葛粉 赤ニシノカラ<sup>マクヘシ</sup>

カキノカラ<sup>マクヘシ</sup> 牛ノキハヤ<sup>マクヘシ</sup> 狼ノ骨<sup>マクヘシ</sup>

廉俛角<sup>サメニテ</sup> 以上ハ色細末メ調合メ加

菜ニハ土蓂ノ灰ト白イ物 惣ノ菜十分一

入テカミノ油ニテ付ヨ 一方ニ或ハ癰癰ニ

成テウミツヨクアラハトククワツニソハノ灰ヲ

アクニタレテナマヌルクメ能アライテスイ菜

ヲ付ヨ

十六六愈テ癰ノ下イエサル度

ハリヲタテ抜根丸ヲミテ廻リニハ消腫散  
ヲ付テ内ニハ丸珍散ヲ与ヘシ

一 抜根丸ノ事 アメ牛ノ角 松ヲタキアフリテ

シルノタリテカタニシラ竹ノ皮刀ニテコソケ

テ粉ニシテ一兩 人參粉一兩 甘草ノ粉一匁

アヲキ葉 ホシテ 日黒焼 ニメ 沉香 黒焼メ

クチナワノキ又 ウスニテヒキ 鹿角粉ニ加シ

六種末メノリニテ子ヤシ 曼程ニウスヒ

ラメ針目一入ヘシ 又粉ニシクタモシテフキ

入ルモ吉也

一 消腫散 牛ノハナ 馬ノハナ 犬ノハナ

三色ヲ酒ニ一夜浸シ 黒焼メ又赤ニシノカ

ラニ酛ヲ入テ 炭火ノ上ニシキ焼テ粉ニメ

三色ノ黒焼 三方一ヲ入テソクタイニ押合テ腫

タル方ニロシアケヒロクト付テ上ニ紙ヲ

付ヨサイクハリヲタテ、ウニシトルヘシ

一 丸矢ノカ子ヲヌク事

ガンキハサミニテハリ上テハ子木ヲ以テ

ヌクヘシソレニモヌケヌ又上ヘシヘスメ矢ノ

根ソコニト、ハリタル茶ヲ付テヌクヘシ

蛇ノカワヲウスニテヒキノ粉ニメスイ茶ヲ  
加疵ノロニ付(シ)又ハビノ皮ノガニキカタ

ヲハサル(シ)

一方ニ三年ニ成 鯉節ヲケツリテ少アフリ麦

スイ茶ニ加疵ノロニツケヨ 一方ニイノシノツチ

ハナヲ乾テ粉ニメスイ茶ニ加付ヨ 又シノカウ

ハヤキテスイ茶ニマセテ猪ノ油ニテトキテ

付(シ)

一方ニ山クチハナヲ春ノ若葉ヲス、シノ縮ノ袋ニ

一七日アシケ馬ノ屎ヲ土蒸ニウケテソシニツケ

テ七日過テ少炒テウスニテ挽テ塗物ニ入

水ヲヒカセズシテ用ル時取出メ胡テ油ニテ

疵ノロニ付テ蓋ヲハ(シ)ノ皮ヲヌラメヒロクト

付テ其上ニ牛房ノ葉ヲ付ヨ 又青木葉アフ

リテモミ付ヨ 上ニシハリヲ十文字ニカケテ廻ニ

地菜ヲサイくツケヨ

一方ニ秋ノ鹿ノ生キ目ヲ乾テ鉄氣ヲ忌粉ニメ

三方一ナモミヲ粉ニメ三方ニ合疵ノロニ付ヨ

上ヲキヌニテユイテラウイ鹿ノ目ハ九月ノ比ナ

クトキノヲ用常ノ時ハヨクシ可得

一方ニカキノ葉十四分 梨子葉十枚イヌトコ

返ソ葉十枚ヲ丑ノ日トシテ茶挽ノ様ニ向

ニテ挽テ茶三服ホトシ一服ニテ又疵口

一ツ洗テアタメテラケハ葺ハ三日五日ニヌク

冬ハ七日ニヌクル也

一方ニ腹中ノムシノシリタル時ナニヨ何モ取リテ

黒燒ニメ搗栗ヲカツホ粉メ女人ノツワキ

ニテトキ合テ疵口ニ付テ紙ニ飯ツツラ付テラ、

ヒ置ハ必ス五日七日ニヌクル也

一方ニ土蛛ヲツツシテ付ヨ又蟪娘ヲツツシテ

タウニテノ皮ヲ去テ合テ疵ノ口ニ付ヨ

廿 疵ニ依テ目ニ(サル事)

疵ヲ蒙リタルニヨリテ目ノ玉ツツレサレ氏曾

ニ入テミ(スメ煩ニハトチノミシ皮ヲ去テサメ

ニテ粉ニメ能クスリテ女ノ乳ニテユルクトトキ

テ目ニ切クサス目ノ上ニ牛房ノ葉ヲアフリ

モミテ切ク付ヨ疵ノ如クニ廻ニ地菜ヲウス

クト付ヨ

廿 手負絶死ス事 四物湯ヲセンメ能程ニ

アタメテ忍草ヲ黒燒ニメ茶半服程トキ

ヲ不定メサイク与ヨクハトコノ葉ヲ于テ後ニ  
アラク刻ミテアフリテ口物湯ニ加ヘテ与ヨク

一方ニ五八草ヲ少上戸疵ニハ酒ニテ下戸ハミツニ

テモ与ヨ禁物 海草 青菜 スケタル物

廿二手負スクム事

スクミタルヲハ小麦ノモヤシ黒焼ニメ粉ニメ

ノテセテ同クモヤシヲ焼テサアセノ出ル程炒

廿三手負ノ及事 及ニハ気茶又延命散

ヲ湯ニテ与ヨ春菱ハ水ニテ与ヨ

廿四手足ノ切落サレタルヲ継ぎ

切落サレ皮少カ、リタルヲハニワトコカ湯柳

ニテモ又妻鹿ノ骨ニテモアレ美ク削テ骨

ノ穴中へ入テシニメ切月ヲ能く合テ赤子ノ

屎ヲニワトコノ葉ニテ切ミ付ヘシ若キコ子ノ

于タルアラハコソケテアイクニ夫モ屎ニ交テ

付其後ニ川ニアル蟹ノ足ノ中ノ肉ヲ取テ

于テ粉ニメスイタスリニ加テ可付 茶ノ上ヲハ

湯柳ノ皮ヲウスタヘキテアミテ 夫ニテ可卷中

一日置テ茶ヲ付替ヨ茶ノ上ニハ青木葉ヲ付

ヘシ又シニハ妻鹿ノ骨ハカ最上也

廿五筋ノ切タル事

筋ノ切タル疵ニハ川ノ十、蟹ノ足ノ肉ヲ乾テ

赤メ少スイ茶ニ加テ付ヨ又人ノ膝ノ尾ヲ

于テキサミ末メ付ヨ

廿六火矢ヲ射ラタラシ治スル事

能搗栗ヲ粉メスイ茶ニ加テ付ヨ大度ノ疵ニハ

搗栗ノ粉ヲ加テ疵ノ底ヘヒラ入ヨ

廿七疵ヨリ汁ノタラサハ事

葉ヲ日ニ干テ茶スル如ク搗テスイ茶ニ加テ

付ヨ又疵口内ヘマクレ入タルハ松葉ヲツキニホ

リテニルヲ付ヨ

廿八疵ヨリ汁多クタリ過事

疵ノハタタシタルニハ土器ヲ粉メスイ茶ニ加テ掛ヨ

廿九愈タル疵ヲ破ル事

フリテ粉メ疵ノナリニシテ付ハシメリニ粉ニ

不成ハ度度モアフリテホスヘシ矢ノ抜ニモ吉又

名ノ木ノ枝ヲ竹ノヨ中ヘ入テアフリテ甚クキシ

疵ノ口ニ押當テシキクスレハ吹切ルナリ

卅疵愈シ、付テ後ニ疵跡ヲホシヒキミヲ直ス

事 疵ノ愈シ、ツキニ尚クホ有ニハヒキ

粉ニツハキニテ瘀上ニ有白糖ノヌルメ金ヲ

アテヨ

一カウ(ラウチテ其血トヨミテ有ハ正月ノ餅ヲ

黒焼ノ茶一服程湯水酒ニテモアレシ

同茶カタイワウヲ粉メ茶一服程湯ニテ与ヨ又ク

スノ根ツキホリ上スミラステ、底ノトリニテ

烏氏ノ根ヲ粉メ未合セ一服程流湯水ニテ与

右此書ハ畠山幡ノ守祐盛秘傳也其相傳衆

細川勝元

畠山政長

三位法印

竹田法印

細川下野之府中村人道

出流ノ旨

若狭法眼

神保越中守

三条銀細工

攝津国多田民部少輔被養一跡相續仕右出家

名知政也生所因州吉見名字者直祐盛相傳也

一血深之事 飯七粒黒焼メ白粉茶一服

程 巴豆一粒 是ヲソクタイニ押更テ山柝ホトニ

丸メウヘノ衣ニハ銀箔ヲス白粉ニテモヨシ

右是ヲ三ツニ方三服ニメ湯ニテ用中村流也

一疵ノ痛ヲ止茶 杉葉 葛キ 朱 右是

一ヲ胡ハ油ニテ可分ハ暖物ニモ吉



一筋切骨クタクテ又ク強發テ狂氣スルライヤス  
桂心一匁 其中二匁 麻葉一匁 右合テ二錢目  
能酒ニテカキ合テ赤カ子ヲソソケテハイシヨ  
入テ吞一匁 變ハミツ冬ハ湯ニテ用一匁

一白朝散

人參二匁 當歸一匁 川芎一匁 其草一匁 茯苓一匁  
紫貝一匁 木香二匁 赤芍藥一匁 地黃一匁  
縮砂一匁 陳皮一匁 大黃一匁 沉香一匁

活香二匁 白芷二匁

右必常蒸シ服ス一匁

一四季ノ加減 春ハタウキ加 夏ハ芍藥加 秋ハ地黃加

冬ハセンキウ加 腹下ラハ大黃シカ 熱氣ハサ

イコ一匁 加ウミケ有ハ黃芪ニ匁 加血カタリ痛ハ桂

心加 血氣ハ人參其中 加頭痛ハセンキウ其

中加 大熱ハセンコチモ 石膏加 虫氣ハリヤウ

カウ加 中風ハ防風 サウクヒ加 茯苓シモ 加

冷テ痛ハカンキヤウ加 ウミケハ三ワウエシモ

加ク惣身腫ハ茯苓シ加

此藥血ヲ止ルニモ可用 藥用ハ別止ル也

一内葉ヲ用ハ痧ノ口ニ寄付葉モ不付青木葉

斗付テシク也

一産前産後ニモ妙也

一大膳大夫殿傳方之 本方ニハ十二味也

高ツキ 蓮花寺 三味加ハ十五味也 本ノ加茶ハ

沉香 多ツカウ 白芷 是ヲ又 四通寺ト云者

秘メ代茶ニ丁子ワウシクシロクヲ加タリ 此

三味ヲ加タルハ次ノ方ニ 正ツウシヨリ 後見

古對馬ニ相傳也 此茶麻瘡産前産

後ニ無上也

是ハ後見ズリヤウ也

人參 四反 當飯 三反 芒キウ 二反 甘草 二反

茯苓 二反 木香 二反 芍薬 一反

地黄 三反 陳皮 二反 大黃 二反 活香 一兩

白芷 一反 右葉ヤウ常ノコトク

一赤ニシニ兩 サニナイ 但ニ十兩 黄栢 一分

右手足ノエビノハシテ痛ニ付テ 押散ス茶也

ウルシニテ子ヤシ付也

一黒阿伽陀

人參 カシウ 沉香 木香 丁子 多ツ香

乳香 白タン 之六 端砂 七キウ 當飯

大黄 栴檀子 麝腦 白朮 芍薬 ワウキ  
 ヒハツ ワウレシ ワウシ ブシ 丁香皮 キワタ  
 茯苓 陳皮 キヨク シウヒ 白朮 シタシ  
 肉桂 シカウ 其中 以上 五味之内 シタシ  
 ニツケイ キワタ 三味 ハ一兩 ヲ入 キワタ 一兩 ハ  
 生 一兩 ハ フル 一兩 ハ 黒ヤキ 但 黒ヤキ ノ キワタ  
 シハ 一兩 ヲリ 多ク ヤキテ 別ニ 粉ニ メク ロム ホト  
 入ル 口傳シ 其中 ハ 一兩 合時 一分 入ル コセウ  
 ニ分 入ル シヤカウ 四ツハ 太儀ニテ 半分 入ル 秘シ  
 シカウ 別ニ スリテ ニツニテ ノ フル 余ノ 薬ハ

後ニ合ル 殊外 ミツテ コトシ 五日 三日 以後  
 細ク ミツ ヲウ ヲウ ヲウ

一 アカタ 又 一方 沉香 木香 クシロク  
 白朮 人参 縮砂 丁子 白朮 センキウ  
 シヤウ木香 フクダ リュウカウ 大ワウ 其中  
 シヤカウ クク香 栴檀子 當飯 乾姜  
 丁香皮 ニクツク ヒハツ 白芍薬 ワウキ  
 黄芩 附子 ガシユウ ウコン ワウレシ  
 キコク 右 五味 ハ 一兩 ヲ 但 其中 ニ 肉桂  
 三味 陳皮 一兩 ヲ 世ウ ニ分

キワタツシラハヤウ 右同前也

一 西大寺 豊心丹 人參 二朱 白芍 一朱

千香 一朱 名ツカウ 一朱 二朱 口ハツ 二朱

松腦 二朱 縮砂 一朱 二朱 丁子 二朱

木香 二朱 センキウ 二朱 キヤウ 二朱 麝香 二朱

法上茶 二朱 シラウシ 一朱 金箔 五十二イ

右粉 一ノリニテ丸メ光明丹ヲ衣ニ

スル也



此本 仁心堂 著 林 氏 是 堂 原 有 本

享保三年戊戌二月下旬寫之圖之



